

道徳科 学習指導案

京都教育大学附属〇〇学校

指導者 〇〇 〇〇

- 1 対象 第2学年〇組 〇〇名
- 2 日時 令和〇年〇月〇日（月） 第〇校時
- 3 場所 2年〇組 教室
- 4 主題名 人とわかり合うには 「B-（9）相互理解，寛容」
- 5 資料名 「コトコの涙」（中学道徳 あすを生きる2）
- 6 主題設定の理由

（1）生徒の実態について

本校は義務教育学校であり、クラス替えがありながらも8年間ほとんど同じ仲間と学校生活を送り、絆を深めているということもあり、それぞれがどのような性格をしているのか等のおおまかな人物像については捉えられていると考える。しかし、年度始めに新しい学級となり、まだまだ新たな人間関係が構築されている途中であり、生徒同士でより良い人間関係をつくっていくための模索段階であるといえる。本学級は、個性豊かな生徒が多いため、固定化された仲の良い集団で過ごす生徒達もいれば、個人で過ごすことを好み、自らの趣味・嗜好をまわりに伝えたいという欲求が大きいがなかなか同学年の仲間と理解してもらえず教師と積極的に関係をとるような生徒もいる。すなわち、それぞれの個性を認め合って温かい人間関係がつくられているというよりは、他人は他人、あのグループはあのグループと、一定の距離を保ち過ごしているような感じがうかがえる。ただし、授業でのグループワークや行事などの学級活動という目的が明確化している取り組みに対しては、協力し活発に交流することができる。

以前に学級の生徒対象にして行った道徳アンケートの結果においてもそれらの考えが顕著に表れていた。学級にどんなことが必要だと思いますかという問いに対して、道徳科の各項目の中から選択させたところ、“それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ。”という項目を挙げた生徒が最も多かった。また、自分自身に対してどんなことが必要だと思いますかという問いに対しては、“自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。”という項目が最も多い結果となった。したがって、クラスの中の多くの生徒達には、個々の個性を伸ばしつつ、その個性を認め合えるような集団になりたいという願いがあることが読み取れる。

（2）主題について

中学生の時期は、肉体的にも精神的にも大きな成長を遂げる時期であり、それと同時に自己の見方や考え方が深まり、自己表現したいという欲求が生まれる。一方で、人間関係については繊細であるため、まわりのことを気遣うがあまり、自己の主張を遠慮し、一歩引いてしまうといった消極的な姿勢も時に見られる。他人任せや安易な同調といった人間関係に対しての閉鎖的な考えや姿勢は人同士の相互理解につながらない。そのため、多面的・多角的に物事を捉えて、互いの個性や、独自性、立場などを許容すること、そして、その上で、寛容な心を持って接し、豊かな人間関係を構築しようという態度を育てるこ

とが大切である。そしてそれらを日常生活の中で、繰り返し実践し道徳性を身につけていくことで、人間関係を築く礎となる。

本資料は、主人公・コトコは老人ホームでのボランティア活動中、お年寄りによかれと思って声かけたことを友人に批判され、最初はその真意が理解できずに悩んだ。その後、老人ホームの園長の田島さんから、優しく接することは間違いではないと慰められるが、ボランティアは「よいことをしていると思ったらダメ」と諭されることで、コトコの心が変容し、より多面的・多角的に物事を捉えられるようになっていく。本資料ではコトコの心が変容する様子を「涙」で表現しており、涙を流した時の心情に着目して読み取り、自分事として捉えようとすることで、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができると考える。

(3) 指導について

誰しもが他人の考えていることがわからなくて思い悩んだり、相手にうまく伝えられずに誤解をさせたり、人間関係がうまくいかなかったりという経験がある。特に8年生という発達段階を考えると、そのような経験は日常でよく経験する事柄であるため、本授業の導入発問で想起させることで動機付けしたいと考える。

本授業では中心発問を、「(i)『うつむいたまま、涙をぬぐった。』(ii)『しばらく止まらなかった涙』2つの涙を流したときのコトコの気持ちを考えてみよう。」と設定している。本資料の特徴である、2つの涙に焦点を当てつつ、それぞれの時のコトコの心情について考えさせることで同じ涙でもどう違うのかという部分で心を揺さぶることをねらいとしている。(i)の時の涙は、なぜ自分が非難されなくてはいけないのか、意味がわからないなど悲観的な涙、(ii)の時の涙は、自分自身の思いのみで身勝手な行動をし、相手のことを考えていなかった、もしかしたら傷つけてしまったかもしれないということに自らが気づいたことで、後悔や情けない意味での涙であると、仲間との議論を通じてコトコは身勝手な短絡的な心情から相手を思いやる多面的・多角的な心情へと変化したことを気付かせたい。そして、議論後、では自分ならどうするのか、そして人とわかりあうために大切なことはなんだろうと問うことでより自分事として考え、一般化させたいというねらいがある。

本授業の中で、自分自身の考えをより深く掘り下げることがもちろんであるが、班での議論や、学級全体での議論を経て、さまざまな考え方があるということについても認識させ、仲間の思いや考えを共有させ、受け止めさせるように支援していくことが大切であると考え。また、中心発問に対して考える上で、コトコ、笹岡さん、マサシ、田島さんといった登場人物の立場や状況、心情を捉えるための補助発問をすることで中心発問のねらいをより明確化させ、より考えさせるような展開となっている。

最後に、本授業を行う上で、今の人間関係を見つめ直し、より良い人間関係を構築し、互いの個性を認め合えるような温かな学級集団を目指すきっかけになることを期待する。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

人にはさまざまな考え方の違いがあることを理解した上で、互いを認め合い、他人とより良いコミュニケーションをとろうとする道徳的心情を育てる。

(2) 本時の展開

○主な指示・発問 ◆支援 ■評価

	生徒の活動	指導上の留意点・支援・評価
導入 ○分	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒で「ある」と答えると考える。 本時のねらいを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが回答した道德アンケートの結果の紹介 ◆相互理解, 寛容が必要であるという結果を伝え動機付けにつなげる。 ○「家族や仲間, 身のまわりの人の考えや思っていることがわからないなという経験はありますか？」 ◆生徒に体験を話させることはせず, 教師の経験から語る。 ○本時の主題を共通理解させる。 “人とわかりあうには？”
展開 ○分	<ul style="list-style-type: none"> 資料「コトコの涙」の範読を聞く。 登場人物の人物像や状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料「コトコの涙」を範読する。 登場人物の関係を共通理解させる。 ○「コトコはどんな人物ですか？」など。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>コトコが笹岡さんに声をかけたのはどんな気持ちからでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 発問に対する予想される反応 「笹岡さんと仲良くなりたい」「楽しんでほしい」「なんとかか参加してほしい」 	<ul style="list-style-type: none"> コトコの優しさや思いやり, 交流を成功させたいという前向きな心や優しい心, ボランティアとしての責任感からくる行動であると確認させたい。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【中心発問】(i)『うつむいたまま, 涙をぬぐった。』(ii)『しばらく止まらなかった涙』2つの涙を流したときのコトコの気持ちを考えてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 発問に対する予想される反応 (i)「ただ自分は一生懸命やっただけなのに」「自分の考えが浅かった」「自己満足だったのかな」「意味がわからない」など。 (ii)「相手の思いを考えていなかった」「笹岡さんのプライドを尊重できていなかった」「未熟だったけどマサシに気付かされた」「今後の接し方を考えなきゃ」など。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆2つの涙を流したときの状況を対比しながら整理する。 ◆コトコ的心情の変化に着目して, 自己嫌悪や葛藤, 迷いというような自己に関する勝手な心情から, 笹岡さんへの気遣いや自分の浅はかさに対しての後悔, 次に笹岡さんへ接する時の前向きな姿勢といった, 自己をみつめたり, 笹岡さんへ対しての心情の変化があったりしたということを中心に議論を進めていくよう支援。

	<p>■コトコと笹岡さんのやりとりから、人とより良いコミュニケーションをとるには、相手との違いを認め、理解した上での思いやりが大切であるということに気付いていたか。</p>	<p>あなたがコトコの立場なら今後笹岡さんにどのように接しますか？また、人とわかり合うために大切にすべきことは何だろう。</p>
<p>終 末 ○ 分</p>	<p>・発問に対する予想される反応 「笹岡さんの思いを尊重したい」「笹岡さんに合ったコミュニケーションをとりたい」「簡単な言葉かけから様子を伺う」</p>	<p>場や状況、思いを尊重したうえで、接することが、より良い人間関係をつくるきっかけになりうるということを意識させる。 ・互いの違いを認め合うということがコミュニケーションの礎となることについてもおさえたい。</p>
	<p>・教師の話を書く。 ・本時の振り返りを記述する。</p>	<p>・本時の授業に対するまとめや補足、助言などを行う。 (留意点)話し合いの内容や生徒の言葉をできるだけ使い、許容しながら本時の流れを整理していく。</p>

8 本時の評価

コトコと笹岡さんのやりとりから、人とより良いコミュニケーションをとるには、相手との違いを認め、理解した上での思いやりが大切であるということに気付いていたか。

(授業内での発言やワークシートの記述)

9 準備

資料「コトコの涙」、ワークシート、板書シート、テレビ、パソコン、プレゼンテーションスライド

コトコの涙

主題 人とわかりあうには
(登場人物の整理)

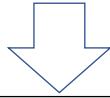
コトコ マサシ

笹岡さん 田島さん

① コトコが笹岡さんに声をかけたのはどんな気持ちからでしょうか。

② (i)『うつむいたまま、涙をぬぐった。』(ii)『しばらく止まらなかった涙』2つの涙を流したときのコトコの気持ちを考えてみよう。

I. うつむいた涙



II. 止まらない涙

③ あなたがコトコの立場なら今後笹岡さんにどのように接しますか？また、人とわかり合うために大切にすべきことは何だろう。